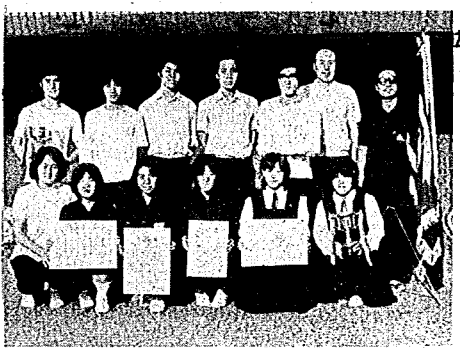


指導者を囲み、活躍した新津高弓道部員のみなさん

弓を引く前に心を練って

各種弓道大会で大活躍の名門新津勢

新津高校弓道部が、県内をはじめ北信越大会などで大活躍、名門の一般の部とあわせ〝弓道新津〟の名をとどろかせています。

今回は、一体となった新津の弓道界にスポットをあててみました。

× × ×

静かな秋葉丘陵にいだかれて、まだ真新しさをとどめる新津高校の弓道場。一歩、門に入ると、ピーンと張りつめた空気がいっぱいに感じられる道場です。

弓をいっぱいに引き、二十八メートル先にマトをしぼる――これがなんと至難の技。伝統武道の一つ「弓道」は、いくら体力があっても、精神統一ができないと、まず命中は無理といわれます。

「体力トレーニングは練習後だけ、練習前には、精神をおちつける意味で、必ずみんなで正座して、心を練っています。あとは、基本をくり返し練習しています。それに私たちには、すばらしい指導者がついていますから、技ばかりでなく、それが自信にもつながって…」と弓道部長の石川貢くん。精神統一と名コーチに恵まれていることが、試合の好結果に結びついていることを話してくれました。

練習に励む新津高弓道部

弓道といえば、一昨年の弓道日本一の鈴木博さん（本町四）がおられます。鈴木さんと同じ弓道連盟の小柳武さん（中沢町）とが、つきっきりで〝未来の大器二世〟を、あたたかく見守ってくれています。

「県内の高校勢では、いま新津高校が群を抜いていますネ。男子の三条商高、長岡高、女子では、西新発田高、三条高あたりがわりと強いほうですネ。まあ、ここ当分は新津の天下ですヨ。でもねえ、進学校の悩みで、三年生になるとせっかく板についてきた〝術〟も、みんな受験準備におわれて去っていく人が多く、ちょっと淋しい感じもしますがネ。」

弓道の普及を生徒たちにかける期待は、鈴木さんも、そして小柳さんもいっぱいです。

「結局、弓道は体力より精神面の勝負なんです。だから礼儀にはうるさくいうんです。〝礼に始まり礼に終わる〟ということをネ。いくら体力があっても、強くなれるわけじゃないんです。体力より、人間的な素直さのあるほうがウンと伸びるんでしょえネ」視線を生徒たちに向けながら目を細める二人の名コーチ。

現在の弓道部員は、男子十六人、女子十七人の計三十三人の大所帯。この中には初段が六人、二段が二人で、毎年春の始業どきには、入部希望者が殺到するほど人気のあるクラブです。

練習は、毎日授業を終えてからたっぷり二時間、でも部員が多い関係で、朝早くから登校して弓を引く人もおり、部員全員がすっかり弓の魅力にとりつかれています。

弓道を始めたキッカケは？に、男女の両キャプテン、

「なんとなく軽い気持ちでクラブに入ったんです。でもやっているうちに〝弓〟に引きずり込まれていくみたいで…。今では飯よりも好きなほどです。口ではうまく言えないんですけど、弓道には、人を夢中にさせる〝何か〟があるみたいで…」

広野京子さんは「弓道部へ入ったのは、勧誘されたから、ただそれだけです。でも、これからもずっと弓道をつづけていこうと思っています。」

〝若さ〟が飛び出すように次つぎに放たれる矢、風を切って、心地よくひびいていました。

最近の成績のぞいたら

◈インターハイ新潟県予選（三条市）
- 女子団体準優勝…新津高弓道部（稲月、広野、山田、石山）
- 個人男子準優勝…川俣　治
- 個人女子準優勝…稲月久美子

◈インターハイ北信越大会（石川県小松市）
- 女子団体準優勝…新津高弓道部（稲月、広野、山田、五十嵐）
- 個人女子優勝…稲月久美子

◈新潟県弓道選手権大会（9月7日　三条市）
- 高校男子団体優勝…新津高弓道部（川俣、渋谷、斉藤、白井、石川）
- 高校男子個人…準優勝　川俣治（新津高）、4位　石川（新津高）、5位　羽賀（新津工）
- 高校女子団体優勝…新津高弓道部（稲月、広野、石山）
- 高校女子個人…準優勝　石山裕子（新津高）、3位加藤（五泉高）
- 一般男子団体優勝…新津弓道連盟（熊倉、小林、石月、小柳、鈴木）
- 一般男子個人…優勝　鈴木博、4位　小林憲二

お買物、ご用命は市内で

カメラ　フジカラープリント　SONY　ICラジオ・テレビ　テープコーダー　特約店
リコピー　事務機・感光紙　各社電子計算機
最新型カメラ
交換レンズ
附属品なんでも
3－20ヶ月払で
株式会社　諸橋カメラ店
本店　新津市駅前　TEL (2) 0659・4718
支店　新津市駅前通り　TEL (4) 0212

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6-12　TEL(2)1731

盆栽の妙味を演出する河野さん（自宅の庭で）

〝名作〟世に出す緑の魔術師

「美と優雅さに魅せられて…」

菊花、盆栽づくりに夢託す河野さん（山谷町二）

菊花、盆栽づくりにかけては日本一、全国各地へも指導にまわられているという人がおられます。山谷町二丁目にお住いの河野正一さん（五十七歳）がその人です。

河野さんは、新津車両管理所を一昨年に退職されましたが、在勤中から菊花愛好者の全国的な組織の大役をはじめ県菊花連盟の審査長としても〝この人あり〟と、もう何十年も第一線で活躍されておられます。

菊花――桜の花と並び称される日本の代名詞。新津市内では、その菊つくりの歴史は古く、全国各地でつくられている優良菊は、市内愛好者の品種改良によるものが多く「新津が日本の菊つくりの元祖ですヨ」と河野さんはいいきります。

毎年秋になると、弥彦神社で菊花展が開かれますが、この弥彦展の創始者が、河野さんといわれます。

「私は、菊花のすばらしさを大ぜいの人たちからみてもらうことが念願でした。国鉄に勤務していた関係で、赤字線と異名をとる弥彦線に、菊花展の開催で少しでも客を呼ぶことができたらと、一生懸命駆けまわったことがありました。十五・六年も前のことです。この弥彦菊花展が、今では全国の愛好者に知れわたる〝実力展〟となっているといっても過言ではないと思いますヨ」と審査長の肩書きをもつ河野さん。菊づくりばかりではありません。すべての盆栽づくりにかけても優れています。お隣りの五泉市からは講師に迎えられて、毎月一回は盆栽の基本技術も伝授しています。

「私は小さい頃から花が好きでねえ、治療のため医者に通っていたあるとき、本当にすばらしい菊が飾られていたんですヨ、欲しいなあ――と思って頼んでみたら、これは高価なものだから…といわれて」

「戦後まもないときだったと思います。市内で菊花展が開かれて観に行ったんです。そのときの菊花の美しさというか、すっかり魅せられてしまってねえ、子どもの頃の〝欲しいなあ～〟といった夢が呼びさまされたんですヨ。」

河野さんの菊つくりの動機はこのときから。以来、菊つくりの先輩を訪ねたり、各地で開かれる菊花展には欠かさず足を運んだりして、育苗から品種の改良と、それこそ手間ひまいとわず熱心に、自力で勉強、研究をつづけられたといいます。

「何んでもそうですが、自分でつくってみないとわからないと思うんですヨ。県外まで足を伸ばして菊を見に行きました。地方によっては菊のつくり方が違いますが、それでも何か一つでも吸収できればと思ってネ。聞きにまわった先輩の中には、ウソも教えられたこともありました。でも、やってみなければ、そのウソもわかりません」

先輩から教わったとおりにやってもダメだった――という河野さんには、だから〝師〟はおりません。

「菊つくりは摘心（てきしん）が大切です。それに上を向きたがるから屈曲させたり、一年中見守ってやらないと…。でも品種ごとに個性があって、いいものは後世まで残せるんですから、やりがいってものは菊つくりをしたことのない人にはわからないでしょう」

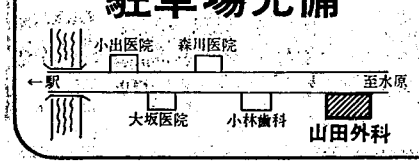
菊の苗や盆栽類がギッシリとうまる河野さんの屋敷内。ウメモドキ、トショ、松、杉、ヤツフサ、モミジ――と、盆栽は目を見はる数。松なんかでは、いろんな種類をつぎたして〝盆栽道〟の調和を考えるなど、まったく〝魔術師〟のよう。根張り、立上がり、屈曲は〝盆栽道〟の大切なポイントとか…。

「私は、自分で改良したものは、どんどん人に教えるんですヨ。大ぜいの人が真剣に取組んで喜こびを見い出せれば、それだけよりすばらしい品種も研究されるというもの。手を加えた盆栽や樹木が、三十年、四十年後にはこんなにも――と夢を見ることができますからネ」

河野さんの夢は、生き生きと大きく広がります。

もう一つ、ミミズのフンを乾燥させて土に還元させてやる――培養土も、盆栽には欠かせないということも聞かせてくれました。菊つくり指導に各地を駆けまわる河野さん。そこはそこで水くれ、監視は、留守をあずかる奥さんの役目。緑の魔術師も「家内の援助があればこそ…」と目を細めていました。

お買物、ご用命は市内で

駐車場完備


胃腸・皮膚・肛門（ぢ）・泌尿・X線
山田外科医院
新町2丁目1―6　TEL(2)0432